

- 日 時：2020年3月15日（日）
- 場 所：立川教会
- 説教題：「あなたは永遠の命の言葉を持っておられます。」
- 説教者：飯島 信
- 聖 書：旧約 ヨシュア記 24：14－24（旧 p377）  
新約 ヨハネによる福音書 6：60－71（新 p176）
- 讃美歌：97「羊飼いの羊飼いよ」532「やすかれ、わが心よ」

お早うございます。

今日の礼拝では、3つのこととお話ししたいと思います。

最初は、今回の新型コロナウイルスの問題で見て来たことです。

第2は、現在、私は礼拝をどのように考えているのかです。

最後は、今日与えられた御言葉から、私たちが学ぶことです。

以上3つですが、最初に今回の問題から見て来たこととお話しします。

新型コロナウイルスの感染が世界に拡大しています。私にとっても、又恐らく皆さんにとっても、このような事態は初めての経験ではないかと思えます。この問題が一日も早く終息し、平穏な生活を営める日が訪れて来ることを切に願います。

それと同時に、牧師として、事態の推移を出来るだけ冷静に受け止め、見て来たことを教会関係者に発信したいと思っているのですが、この数日間の情報だけでもいろいろなことを考えさせられました。

一つは、デマ情報です。普段はあまり気にしていませんでしたが、事柄の事実か否かを確かめる前に、人はあまりにも安易に偽情報を信じてしまうのだと言うことを目の当たりにしました。新型肺炎とトイレットペーパーやティッシュペーパーとは、どのように考えても関係が結びつかないのに、スーパーから無くなったことです。自分さえ良ければ良いとの考えで、多くの人が必要以上に買いだめをしたためでしょう。

二つ目は、ある意味でのパニックが起きている中で、それがもたらす被害は、社会の最も弱い人々の所に向かうことです。今回は、物流だけではなく、人の行き来も止まりました。経済の先行きが見通せない中で、企業収益が悪化し、その結果解雇された人、解雇はされなくとも自宅待機を言われた人など、人々の生活を直撃しています。特に、非正規雇用のシングルマザーとして働かされている人々の生活がどうなっているかが気にかかるのです。追いつめられていないか、彼らを支援する経済政策がしっかり打ち出され、機能するかどうかを注視したいと思います。

さらに、この春、新たな旅立ちを準備していた若者の内定取り消しが起きていることも知らされています。テレビのインタビューで語っていましたが、絶望的な気持であるとは、まさにそうだと思うのです。

そして、これらの事と関連し、ぜひ知っておいて欲しいことがあります。

先週の水曜日、3・11の東日本大震災9年目を迎えた日のことです。友人からのメールで知らされたことがありました。そのメールを読んだ時、目を疑いました。お隣のさいたま市役所の幼稚園担当の「子ども未来局」が、さいたま市内の幼稚園・保育園の職員向けに配布したマスクの対象から、さいたま朝鮮幼稚園を除外したと言うニュースでした。つまり、さいたま朝鮮幼稚園の職員は、同じ日本の幼稚園・保育園の職員に配布されたマスクをもらえなかったと言う事実です。しかも配布されないことを知らされたのが配布前日であり、園長から理由を聞かれた「子ども未来局」の職員は「(朝鮮幼稚園は)さいたま市の指導監督施設に該当しないため、マスクが不適切に使用(転売など)された場合、指導出来ない」と答えたとのことでした。

幼い幼稚園の園児まで差別されたことに驚いた私は、そのメールを私の友人たちにも知らせ、翌日、さいたま市役所と朝鮮幼稚園に電話をしました。市役所の担当課の電話は、さすがに全国からの抗議のためか繋がりませんでした。朝鮮幼稚園とは繋がりに、対応に出た職員には、日本人としてのお詫びを申し上げ、私が個人的に持っているマスクを送る申し出をしました。職員の方からの返事は、マスクは大丈夫であるとのことでしたので送らずにおきましたが、在日の朝鮮や韓国の方々に対するヘイトスピーチを許している日本社会の現実の一端を思い知らされたようでした。

続いて、礼拝に関わることをお話しします。

今回のことで、私自身、外出することが少なくなりました。

礼拝で皆様とお会いするので、慎重になっているからです。

礼拝は、私たちにとって、教会生活を行う上で最も大切な時間です。

私たちキリスト者の一週間の日々は、週の初めの礼拝から始まり、6日間の生活を終えて礼拝に帰って来ます。つまり、全ての生活の起点となる礼拝を中止することはありません。役員のある方が言われているように、たとえ私だけでも礼拝は守ります。現に、夕礼拝や祈祷会が私一人の時もありますが、中止したことはありません。

但し、今回のように、感染拡大が懸念される時は、すでに皆さんの元に知らせが届いていると思いますが、この場所で礼拝することを教会員の務めから外し、礼拝する場所は皆さんの自由な判断にお任せしたいと思います。又、礼拝に出席される方は、入り口で手指を消毒し、マスクを着用し、間を空けて座っていただくなどの協力をお願いすると共に、空気の入替えや礼拝時間の短縮など、十分な配慮のもとに礼拝を行いたいと思っています。

それでは、今日与えられた御言葉を見てまいりましょう。

60節です。

60：ところで、弟子たちの多くの者はこれを聞いて言った。「実にひどい話だ。だが、こんな話を聞いていられようか。」

イエス様に従っていた多くの弟子たちを躓かせる原因となった「実にひどい話しだ」とは、その前のページの 22 節から始まる群衆との問答の中でイエス様が語られた内容でした。その内容は、60 節の少し前の 53 節から始まるイエス様の言葉で明らかになります。

53 節から 59 節までお読みします。

53：イエスは言われた。「はっきり言うておく。人の子の肉を食べ、その血を飲まなければ、あなたたちの内に命はない。

54：わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、永遠の命を得、わたしはその人を終わりの日に復活させる。

55：わたしの肉はまことの食べ物、わたしの血はまことの飲み物だからである。

56：わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、いつもわたしの内におり、わたしもまたいつもその人の内にいる。

57：生きておられる父がわたしをお遣わしになり、またわたしが父によって生きるように、わたしを食べる者もわたしによって生きる。

58：これは天から降ってきたパンである。先祖が食べたのに死んでしまったようなものは違う。このパンを食べる者は永遠に生きる。

59：これらは、イエスがカファルナウムの会堂で教えていたときに話されたことである。

つまり、多くの弟子たちが躓いたのは、54 節から 55 節にかけてイエス様が語られた言葉でした。

54：わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、永遠の命を得、わたしはその人を終わりの日に復活させる。

55：わたしの肉はまことの食べ物、わたしの血はまことの飲み物だからである。

彼らには、イエス様が語られた言葉の真の意味を理解する事が出来ずに、文字通り人間の肉と血と言うことでしか受け止めることが出来なかったのです。

しかし、イエス様が言われパンとは、「天から降ってきたパン」、即ち神様が人々に与えて下さった命のパンとしてのイエス様を意味し、それを食べるとは、イエス様が語られる言葉の一つひとつを信じて受け入れることでした。血についても同じことです。神様が人々に与えて下さった“霊的な血”、命の御言葉であり、それを信じて受け入れる者は、永遠に渴くことが無いのです。

まさしく、63 節にあるように、イエス様が人々に話した言葉は「霊であり、命で」した。しかし、それまでイエス様に従って来た多くの弟子たちは、イエス様が語られた言葉の真の意味が理解出来ず、去って行きます。

65、66 節です。

65：そして、言われた。「こういうわけで、わたしはあなたがたに『父からお許しがなければ、だれもわたしのもとに来ることはできない』と言ったのだ。」

66：このために、弟子たちの多くが離れ去り、もはやイエスと共に歩まなくなった。

しかし、そのような中で、シモン・ペトロの答えは違いました。

67節から 69節です。

67：そこで、イエスは 12 人に、「あなたがたも離れて行きたいか」と言われた。

68：シモン・ペトロが答えた。「主よ、わたしたちはだれのところへ行きますようか。あなたは永遠の命の言葉を持っておられます。

69：あなたこそ神の聖者であると、わたしたちは信じ、また知っています。」

驚くべき、ペトロの答えでした。

誰が躓いても不思議ではないイエス様が語られたこの“肉と血”の譬えを、なぜペトロは理解し、躓くどころか、イエス様に対するキリスト告白にまで導かれたのかと思います。

ここで考えるのです。

本当にペトロは、イエス様が語られた言葉の真の意味を理解していたのかと。

もしかしたら、理解していなかったかも知れないと。

ではなぜ、このようなキリスト告白が出来たのでしょうか？

「主よ、わたしたちはだれのところへ行きますようか。あなたは永遠の命の言葉を持っておられます。あなたこそ神の聖者であると、わたしたちは信じ、また知っています」と。

私は、ペトロにキリスト告白をなさしめたのは、あのガリラヤ湖での劇的なイエス様との出会いの後、イエス様の呼びかけに応じて全てを捨てて従い、イエス様との寝食を共にした生活を送る中で、ペトロの中に生まれたイエス様に対する心の底からの敬愛と信頼だと思ふのです。「この方がなされること、言われることは、信じるに値するのだ」と。

つまり、ペトロとイエス様の間には、人間としての深い信実な交わりがあり、この交わりこそペトロの告白を導き出したのだと思うのです。

私たちがイエス様に対する信仰を告白する時、確かに聖霊による導きなくして告白することは出来ません。しかし同時に、その告白を後押しするものがあると思います。ペトロの内に生まれたイエス様に対する敬愛と信頼がそれです。

そのことは、私たちについても同じことが言えます。

聖霊によって導かれるキリスト告白、そして、それを後押しするもの、それは同じ信仰を持つ者同士の深い信実な交わりです。

立川教会に呼び集められた私たちは、互いの信仰告白を後押しするような、深い信実な交わりを生み出す群れでありたいと思います。

祈りましょう。

